英雄伝説
空の軌跡4
ソラノキセキ
漫画・啄木鳥しんき
原作・日本ファルコム
Emotion Comics

※エステル・ブライト
Estelle Bright

リベール王国ロレント地方出身の16歳。明るく元気でいつも前向き。純粋な人柄は誰にでも好かれる。遊撃士に憧れていたエステルは、16歳となり試験資格を得てすぐに、ヨシュアと共に準遊撃士の資格をとる。父譲りの棒術には天性のカンを持ち、身体を動かすことが得意な実戦派だが、机の上の勉強はちょっと苦手。ヨシュアは義理の弟にあたるため、なにかとお姉さんぶろうとするが、あまり上手くはいっていない?

※ヨシュア・ブライト
Joshua Bright

エステルと同じ16歳。カシウス・ブライトと血は繋がっていないが養子として迎えられ、実の子と分け隔て無く育てられる。性格は冷静沈着で、何事にも賢明かつ分析的な行動をする。普段は穏和で、周囲に気を使うタイプだが、時に冷徹ともいえる一面が覗くことも…。行動的なエステルにひっぱられている印象もあるが、その実エステルの暴走をうまくコントロールしているとのもっぱらの評判。

ここまでのあらすじ

地域の平和と安全を守るプロフェッショナル「遊撃士(ブレイサー)」を目指すエステルとヨシュア。遊撃士の仕事で国外へ旅立ったのち、行方の知れない父、カシウス・ブライトからの手紙をきっかけに、正遊撃士となるための旅を続けていた。
謎の黒い導力器とともに添えられていたメモの宛名「R博士」を手がかりに、工房都市ツァイスに向かったエステルとヨシュアは、その道中、魔獣に襲われていた導力技術見習いの少女・ティータを助ける。ティータを目的地まで送った二人は、そこでティータの祖父・ラッセル博士と出会う。なんと、この導力技術の権威であるラッセル博士こそが、エステルの父・カシウスの手紙にあった「R博士」だったのだ。ラッセル博士と謎の導力器の解析を試みるエステルたち。果たしてその正体は——。

英雄伝説 空の軌跡4
ソラノキセキ

漫画・啄木鳥しんき
原作・日本ファルコム

Contents

第26話……007
第27話……029
第28話……049
第29話……069
第30話……091
第31話……109
第32話……135

※ティータ・ラッセル

Tita Russell

工房都市ツァイスに住む導力技師見習いの少女。人当たりが良く朗らかな性格で、誰からも愛されるが、機械を前にすると夢中になり、技師ならではのガンコさを見せる一面も。祖父アルバートとの二人暮らし。

※アガット・クロスナー

Agate Crosner

「重剣のアガット」と呼ばれる凄腕の若手遊撃士。かつてはルーアンの不良グループ「レイヴン」のリーダーだったが、ある人物の影響を受け遊撃士となった。短気で無愛想、常に威圧感のある雰囲気をまとっている。

※アルバート・ラッセル

Albert Russell

ティータの祖父であり、導力学者。オーブメントを開発したエプスタイン博士の直弟子で、リベールのオーブメント技術の基礎を築いた伝説的人物でもある。発明に熱中すると周りが見えなくなる、良くも悪くも天才肌。

※マードック

Murdoch

ツァイス中央工房の工房長。ツァイス地方の政治的代表を務める重要人物でもある。人望に厚く様々な陳情にも丁寧に応えるが、自由気ままなラッセル博士の行動にはいつも振り回され、気苦労が絶えない。

※ナイアル・バーンズ

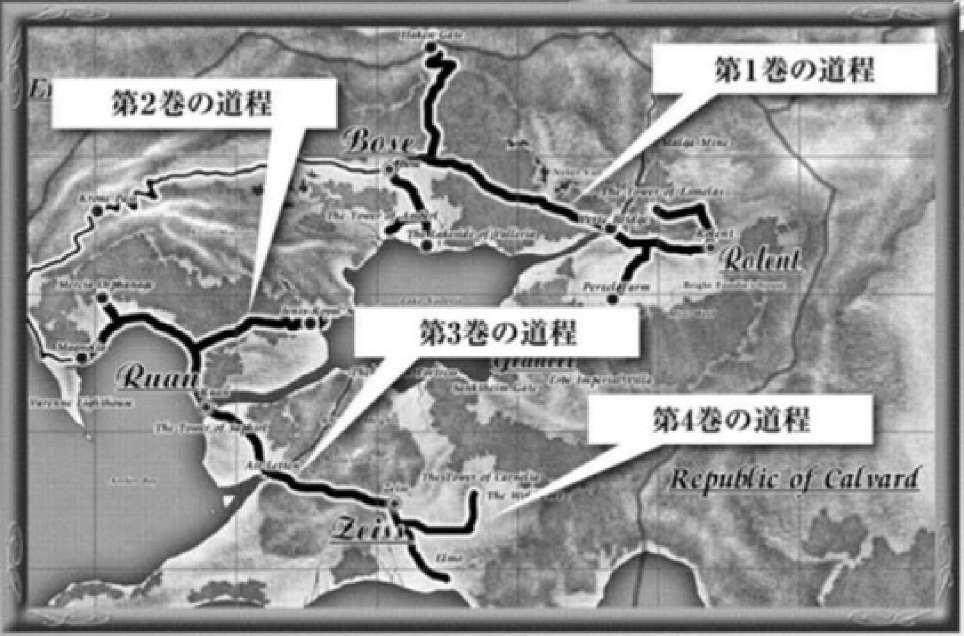
Nial Barns

雑誌「リベール通信」の敏腕記者。無愛想で、興味のないことには一切やる気をみせないが、スクープとなると俄然活気づく。記者としての誇りは強く、真実を市民に伝えることが使命であるとの信念を持っている。

※ドロシー・ハイアット

Drothy Hyatt

ナイアルとコンビを組む「リベール通信」の新米カメラマン。底抜けの天然ボケ&ドジっ娘で、ナイアルをうんざりさせっぱなし。だが、写真の腕前は天才的で、ときに息を呑むような出来映えの写真を撮ることも。



それでは
この謎の黒い導力器（オーブメント）…
名付けて
『黒の導力器（オーブメント）』の実験を開始するぞ！

なんか…まんまなネーミングね…
さて…実験の前に……
実はこの「黒の導力器」
正規の導力器なら必ずあるべきモノがついておらんのじゃが…
え～…？
それが何かわかるかの？
うん…
え？
あれ!?
「キャリバー」…ですね？
キャ…キャリバーって何…？
導力器のフレームに刻まれている型式番号のことですよ
その導力器がいつどこで造られたかを表しているんです
……
ナンバリングはどこの国の導力技術者にも共通する常識なんですよ
つまり名札みたいなモノかしら？
うんうん
それがついてないってわけね!!
そうそう♪
あれ？…でも名前を隠すって…
あんまりいいことじゃないわよね…？
その通りじゃ

導力器は本来人々の役に立つようにとの想いを元に生み出される
その想いに刻まれるキャリバーはいわば技師の誇りのようなものじゃ
それをつけてもらえなかったこの導力器…
何か後ろ暗い目的で造られた可能性が高いんじゃろうな…
…わしらも用心してかからねばならんぞ
そこで！まずは導力測定実験じゃ！
黒の導力器がどんな働きをするものなのか探ってみるとしよう！
ティータ！測定装置の起動を頼む！
はいっ！
ばん！
びしっ!!
おお～

どういうことをするの？
本当はこいつの中身を直接調べたいところなんじゃがな
こしゃくにも入出力さえ見当たらんうえに
超頑丈なフレームで守られてるときている
そこでだ！この測定装置で黒の導力器(オーブメント)の結晶回路に特殊な導力波をぶつけて
その反応から導力器(オーブメント)の性質を推測してみようというわけじゃ！
おじいちゃん！準備完了だよ！
うむ!!
それではいくぞ!!
がっ頑張って!!
ラッセル博士っ!!
ポチッとな!!

フォン
お…おじいちゃん…
ん？
な……
…なんだか…
ヘン…かも…
タコメーターの針が…
なぬ!?
ちょ…
ちょっと…
あれって…!!

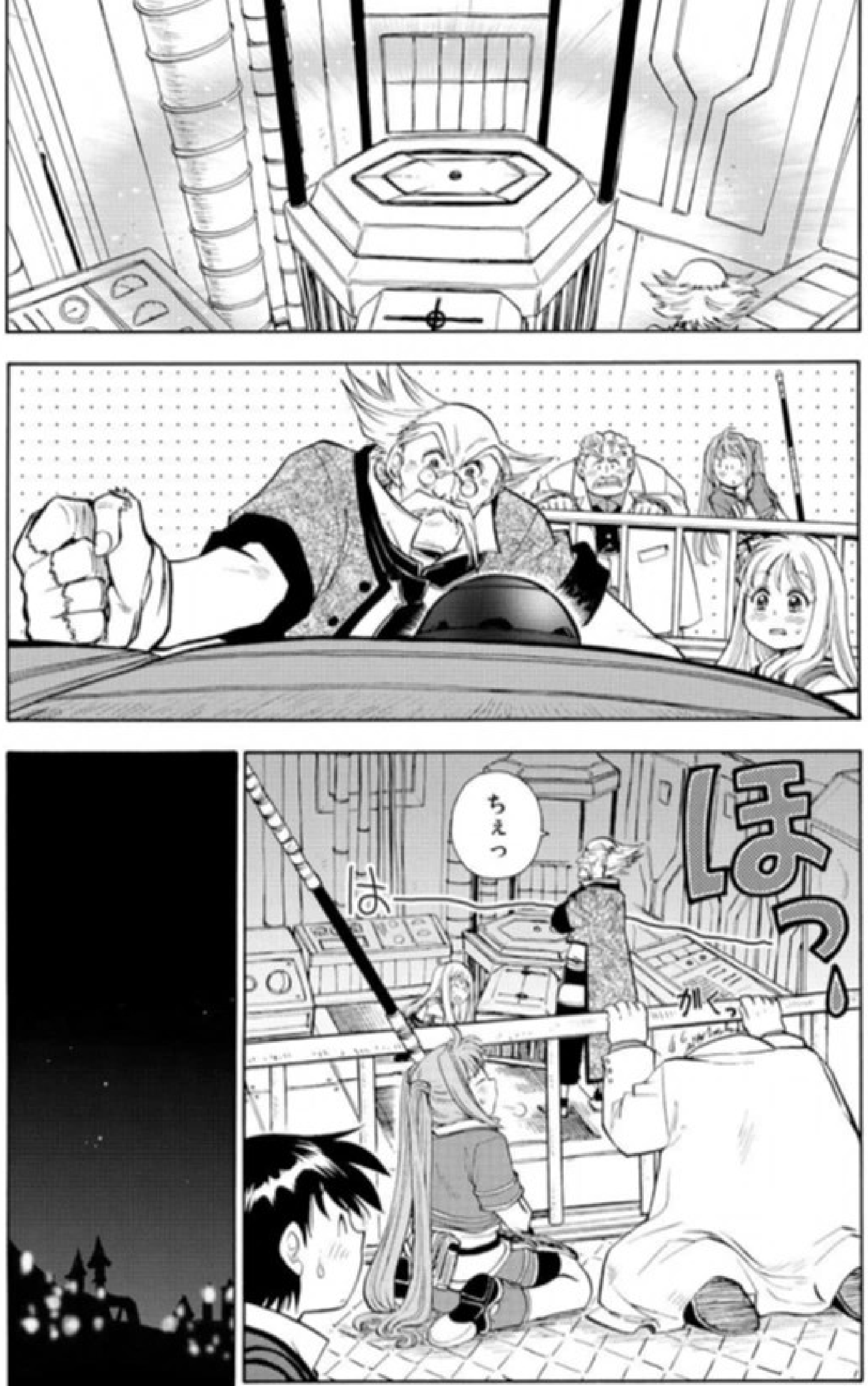
きゃあっ
なんじゃ
これは!?
あの時の…
黒い光っ!!
フッ…
わっ
ひっ!
フウッ……
こ…
こやつ…!!
おっ
おじいちゃん…っ
うろたえるでない
まずは
測定装置の
動作状況を
総チェックじゃ
は…
はいっ!!
エステル!
僕たちは
外の様子を
調べてこよう

あっ!

町の灯りが…
消えてる…
これってあの実験のせいなの!?
そうとみて間違いないだろうね
それに
消えたのは照明だけじゃなさそうだ

おじいちゃん!
これ以上はダメだよぉ!
止めてくれるなティータ!!
もう少しで何かがつかめそう…
博士――っ
大変よ!! 町中の照明が消えてる!!
なに!?
町の人達も騒ぎ始めてるわ! このままじゃパニックになっちゃうって!
そんな…広範囲に影響が……
おじいちゃんっ!!
お…お…
おもしろいっ!!
こいつは予想以上の代物じゃぞ!!
ハーーー
カーーー
セーーー
はあっ
はあっ
はあっ
工房長さん!
おお! マードック!!
今度の実験はすごいぞ!!
なんと町中の照明が…
くあっ
またあなたのしわざですかっ!!
ラッセル博士っ!!
びくぅ
なんてことをするんです!! 中央工房の…
ツァイスの町全体の導力器(オーブメント)を根こそぎ停止させるなんて!!
早く元に戻してください!!
なっ……
なんと…まあ…
この導力器(オーブメント)…

かっこつけてる場合かあっ!!
いい加減にしないと…
がーっ!!
もぉ
ええい!!
仕方ないっ!!
これにて実験は中止じゃあっ!!
パッ
ポッ


ほっ
ちぇっ
はー
がくっ

すみません おじいちゃんったら…
起きるまで待ってようって言ったんですけど
黒の導力器(オーブメント)の謎をつきとめてやるー!!
…ってひとりで中央工房に行っちゃって……
でもきっと何か進展があると思いますよ!
だってわたしの自慢のおじいちゃんなんだから!
よーし! あたしたちも中央工房に急ぎましょ!
エステル その前に
朝早くからパワフルね…!
ツァイスの協会に挨拶と報告をしておかないと
あ
聞かなきゃいけないこともあるだろ?

遊撃士協会ツァイス支部へようこそ
こんにちは～
ようやくのご到着ね
エステル ヨシュア
私はキリカ
以後お見知りおきを
早速だけど……R博士には無事たどりつけたようね
昨晩の騒ぎは例の導力器(オーブメント)が原因?
あ…っ
はい!
実は…
なるほど… よくわかりました
キリカさん
僕たちも聞きたいことがあるんですが

残念だけど
へ？
カシウスさんはツァイス地方にはいないわね
少なくともここ数ヶ月はこの支部を訪ねてきていない
残るは王都グランセルだけど…向かってみる？
いえまだしばらくは…
そうね…今はやみくもに捜し回るより
その導力器(オーブメント)の調査をする方が結果的に彼への近道になるでしょう
ほぉお
あなたたちはこのまま博士に協力するといいわ
はい
す…すごいわねキリカさん…
あたしたちのことなんでそんなにわかるわけ…？
届けられた情報からしかるべき判断をしただけよ
あなたたち遊撃士を全力でサポートするのが私たちの仕事だから
お……
恐れ入ります！
いってらっしゃい

おじいちゃん手伝いに来たよ…
あ
マードック工房長さんおはよーございます
やあティータ君
それに君たちも
あれ？今度は何？
工作機械で黒の導力器(オーブメント)のフレームを切断しようとしてるんじゃが
これが上手くいかなくてな
特殊合金製の丸ノコでも切れないの？
えっ
いや…切断するまでに至れないと言う方が正しいかの
何度やってもフレームに歯が入る前に工作機械が止まってしまうんじゃよ

どうやらこの黒の導力器には
外から干渉しようとする導力器の機能を停止させる力があるようじゃ
しかもその停止現象は周囲で稼働中の他の導力器にも連鎖して広がっていくらしい
有効範囲はおよそ5アージュ
まあ逆に言えばその範囲内に稼働している導力器がなければ導力停止現象はそれ以上は広がらんというわけじゃな
こんな短時間でそこまで…
ツァイス中央工房にはとっておきの秘密兵器があるんでな
そう！
中央工房が誇る世界最高峰の導力演算器「カペル」と
そしてこの「わし」じゃ！
ふたつの頭脳をもってすれば
解けぬ謎などありゃせんよ！
解析はわしらに任せておけ！おまえさんたちはのんびり観光でもしてくれればいい！
はっはっは
少し遠いがエルモの温泉はおススメじゃぞ！
いえさすがにそこまでは
ああ!! そうだった!!
博士！
実はそのエルモ村の旅館から温泉の導力ポンプが壊れたとの連絡がありまして
なんじゃと!?
このままじゃ営業できないから至急博士に修理を頼みたいと女将が…

かーーっ!!
この忙しい時に!!
代わりの技師を送りましょうか?
40年前のポンコツじゃぞ!? わし以外に扱える者がそうそういるわけなかろうが!!
ダメじゃ! ダメじゃ!
くっそー… あのバアさんめ…
うううう
なんでこんなタイミングで…
あの… おじいちゃん…
代わりにわたしが行っちゃだめかな…?
わたし前に整備のお手伝いしたよね? だからきっと大丈夫だと思うの
そうじゃな! おまえなら何の心配もいらんわい!
ぽん!
何を言ってるんですかアンタはっ!!
いくら街道だって魔獣が出ないとは限らないんですよ!?
わあわあ わあわあ
そ… そうじゃな… おまえ一人じゃ別の意味で心配じゃのう…
でもでもっ
おじいちゃんやマオおばあちゃんが困っているのに
わたし… ほおっておけないよぉ!

ラッセル博士っ!
それじゃああたしたちは
ん?
ばっ!
ゆっくり観光でもしてくるわね!
せっかくだからお言葉に甘えて
エルモ村に行ってきます!

このエルモ村の温泉の動力ポンプは
毎年おじいちゃんが直々に手入れをしているんです

40年前
導力器は世間にまったく知られていなくて…
この動力ポンプは…導力器の便利さをみんなに知ってもらうために
おじいちゃんが最初に作ったものなんです
そういうことならしっかり修理をしなくちゃね
はいっ
いいですよ！汚れちゃうし
遠慮しないでティータちゃん
よーし！あたしも手伝っちゃう！
お姉さんに任せなさいっ
さあっ！
なにから始めましょうか!?

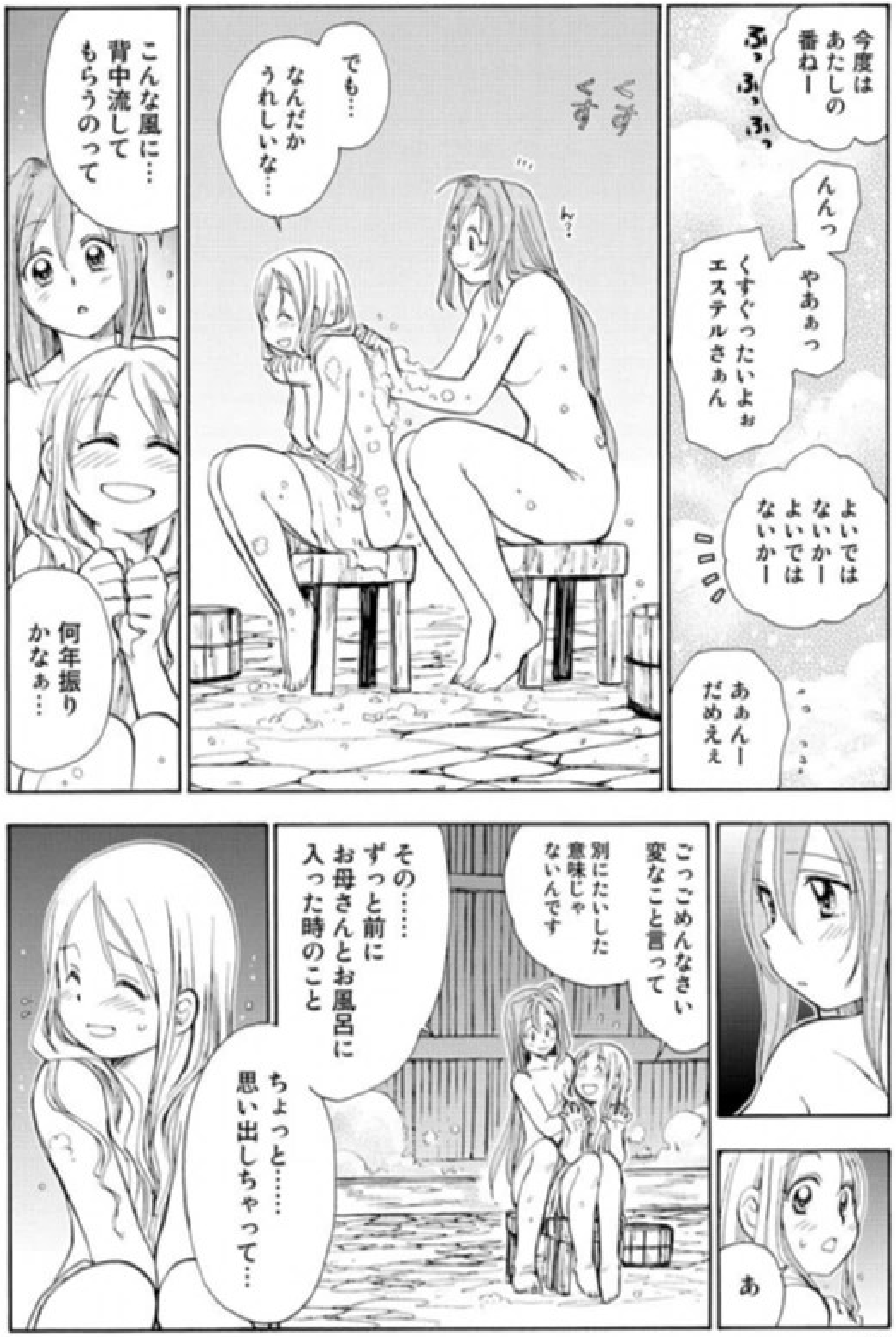
…エステルは何もしない方がいいんじゃないかな
あんですって!?
あたしだって導力器のひとつやふたつ…
ばん!
あ…あれ? こういう時はこんな風にたたけば元に…
余計なことはしないの
ばふんっ
うわっ
余計なことって…
あたしはただティータちゃんの力に……
はいはい でも今回はその気持ちだけに留めておこうね
なによーーっ 足手まといだって言いたいの!?
君のそのたとえ実力が伴わない案件に対しても常に一生懸命取り組む姿勢が素敵だなって言ってるんだよ
む…
むーーっ
ティータちゃん こちらは気にせず作業をすすめてください
はい

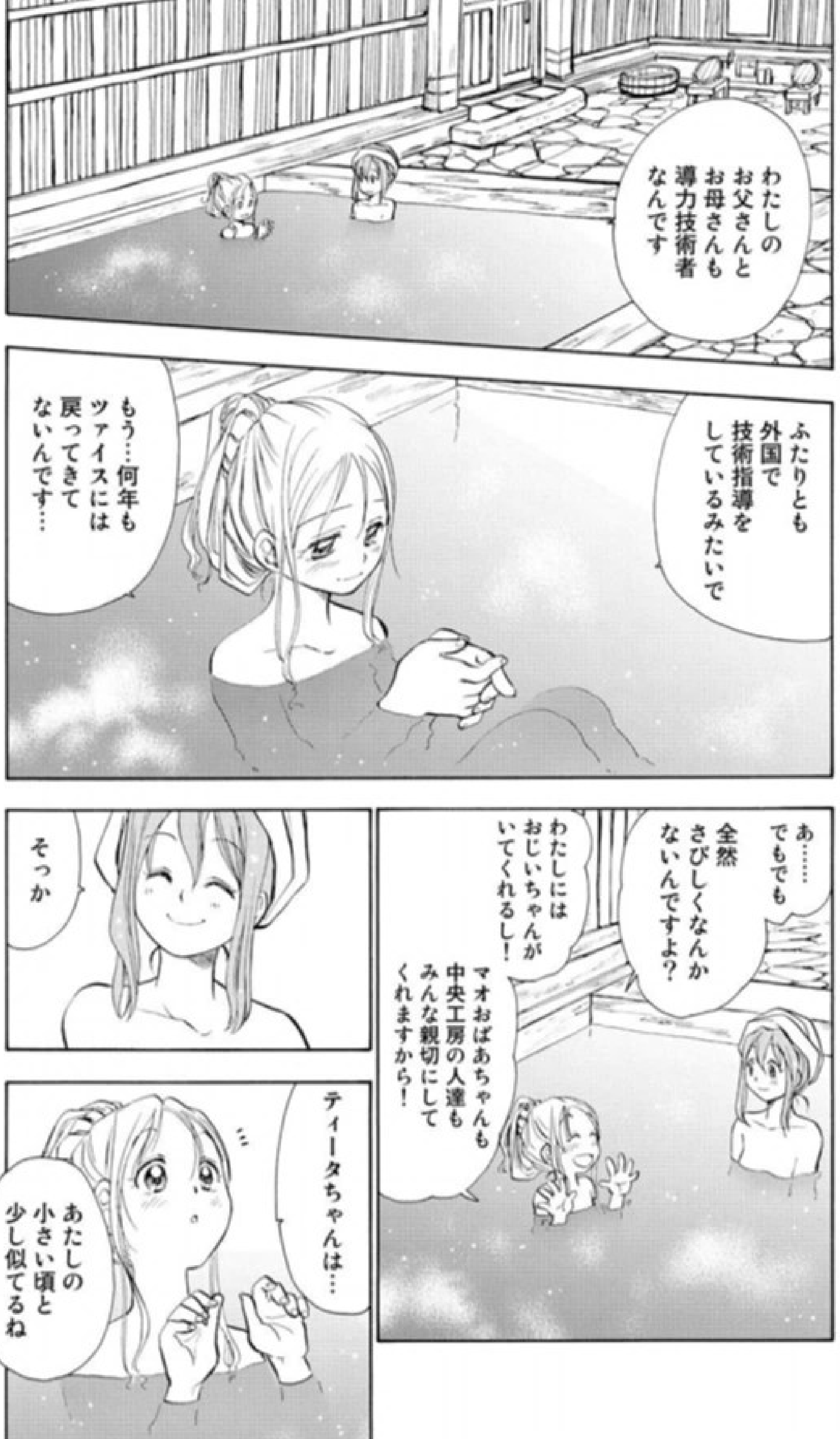
マオおばあちゃん!
ポンプの修理が終わった…
むぎゅ!!
ありがとよティータ!!
よくやってくれたねぇ!!

それに比べて…
なんだい！
あのジジイときたら！
ティータに自分の仕事を押しつけて…！
ちっ ちがうの おばあちゃん
おじいちゃんはちゃんと修理に来るつもりだったんだけど
わたしが無理を言…
ぎゅう
わかった わかった
あんたは健気でいい子だねぇ…
とにかく疲れただろう
みんな今夜は泊まっておいき！
ん
え
当然さねぇ！
…あたしたちもいいの？
ティータが初めて連れてきた友達だよ
さあ！
さあ！
紅葉亭自慢の温泉に
ゆっくりつかってっておくれ！

楽しみだな！
あたし温泉ってはじめてなの
とっても気持ちがいいですよ
えっと…奥が女湯で
男湯がそちらになってます
お風呂は男湯と女湯それぞれに内湯がひとつずつあるんですけど
露天…風呂？
あ
この紅葉亭にはもうひとつ大きいお風呂が
しかもお外に作られているんです
外にもお風呂があるの!?
うわ――っ
おもしろそう――っ！

ヨシュア聞いた!?
露天風呂だって!!
うん
ここにも書いてあるね
大丈夫だよ
僕は遠慮しておくから
え
もおっ!!
ヨシュアはいっつもそうなんだから!!
こういう時はしっかり楽しまなきゃだめよ!!
いい!?
びし!!
ヨシュアも絶対露天風呂に行きなさいよ!?
いや…でも…
つべこべ言わずに入りなさいっ!!
あとでちゃんとチェックするからね!
あのエステル…
じゃあまたあとでねー♡
……
か・ぽーん


今度はあたしの番ねー
ふっふっふっ
んんっ
やあぁっ
くすぐったいよぉエステルさぁん
よいではないかーよいではないかー
あぁんーだめえぇ
でも…なんだかうれしいな…
くすくす
ん?
こんな風に…背中流してもらうのって
何年振りかなぁ…
あ
ごっごめんなさい 変なこと言って
別にたいした意味じゃないんです
その……ずっと前にお母さんとお風呂に入った時のこと
ちょっと……思い出しちゃって…


わたしのお父さんとお母さんも導力技術者なんです
ふたりとも外国で技術指導をしているみたいで
もう…何年もツァイスには戻ってきてないんです…
あ……でもでも全然さびしくなんかないんですよ?
わたしにはおじいちゃんがいてくれるし!
マオおばあちゃんも中央工房の人達もみんな親切にしてくれますから!
そっか
ティータちゃんは…
あたしの小さい頃と少し似てるね

あたしもね…お母さんは亡くなってるんだけど…
父さんは仕事で何日も家に帰ってこれないことも多かったの
だけどロレントのみんなが…あたしの周りの人たちがずっとあたしを支えて助けてくれたんだ
だから……あたしもティータちゃんと同じかな?
エステルさん…
あ……
……
エステルさん?
あー……
そう言いたいところだったんだけど…
あたしは……本音言うとね
父さんの帰りをひとりぼっちで待ってた夜は…
ちょっとだけ…さびしかった…
……かな

あ！もちろん今は違うわよ！
現にそんなことさっきまですっかり忘れちゃってたしね！
あの…どうやって…
ん？
どうして…エステルさんはそう思えるようになれたんですか？
どうしてって…その…
あたしはもうひとりぼっちじゃないし！
それはティータちゃんも同じでしょ？
ティータちゃんのそばには
ティータちゃんの大好きなおじいちゃんがいるし！

あたしには
ヨシュアがいるからね
だから もう さびしいなんて思ったことは
出会ったあの日から
一度も…
わああああぁ
あ…あの…
エステルさんもうひとつ聞いてもいいですか？
え!?何!?
あのあのっエステルさんとヨシュアさんって

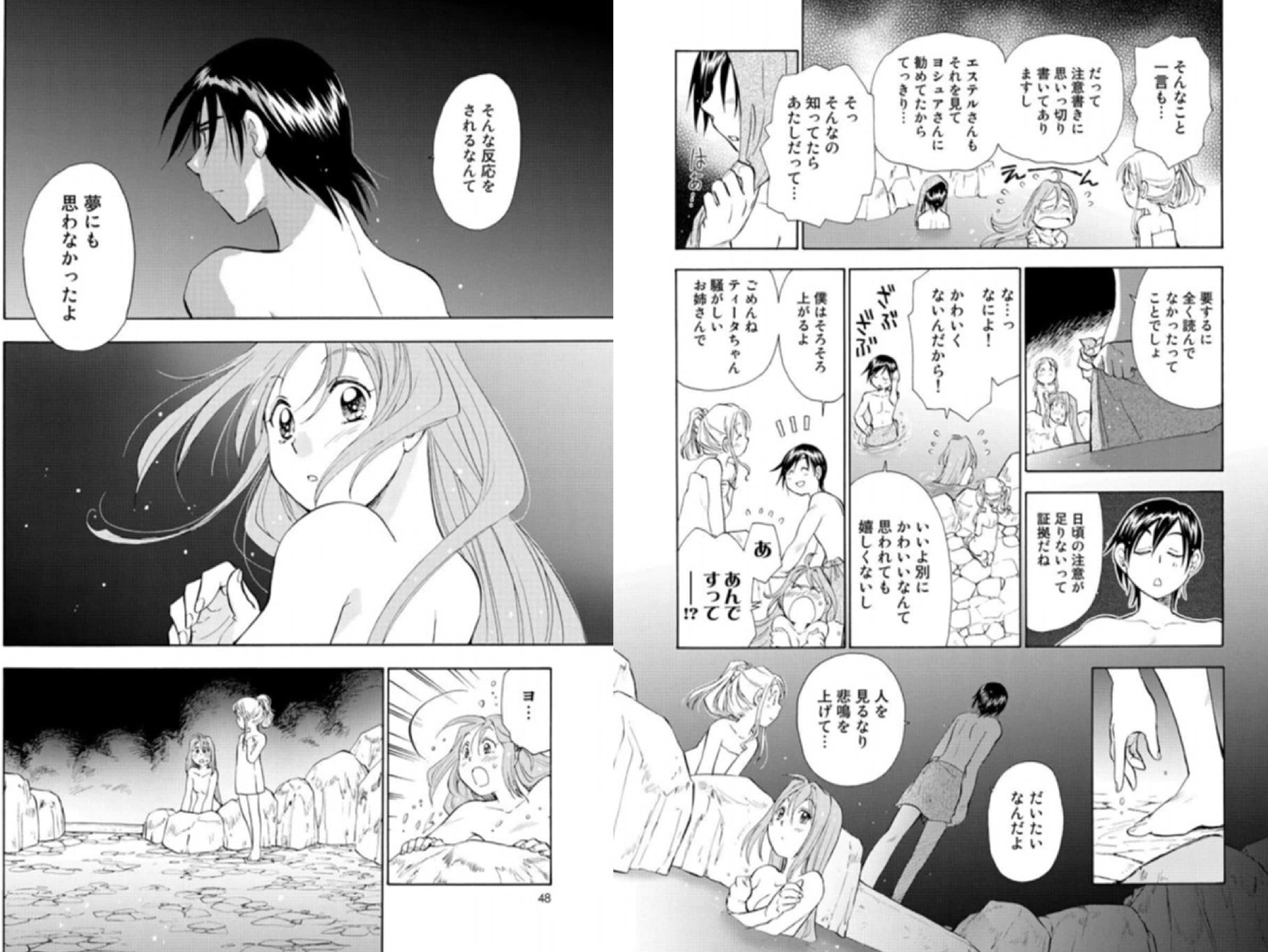
もう結婚してるんですか？
ざぶん
ぷはっ
なんでそうなるわけっ!?
ちがうんですか!?
だ だって名字が同じだし…
ヨシュアは父さんの養子だもの！
ええっ!?
あたしとヨシュアは義理の姉弟でただの家族なのっ!!
そーなんですか——…
どきどきどきどき
あ…あたしたちって…そんな風に見える…？
だ…だから…
らぶらぶとか
あつあつとか
いちゃいちゃとか
そーいうの
え……
……
そういうんじゃないんですけど…
こんな人たちが恋人だったら……
いつも一緒で…
それがとっても自然だし
夫婦だったら素敵だなって思ったから…
ひー
お互いのことをわかりあってる感じがして
それに…露天風呂も平気そうだったし…
そっ…そうだ!!
露天風呂よね!?
ぎゃーっ!!
ざっぱーん
あああたしのぼせてきちゃったしちょっと入ってくるわ!!
ばたばたばた!!
あ
エステルさん

はーっ

かららららん…
まったく…
どうしてみんなそういうことばっか言うかなー…
ヨシュアと恋人?
ヨシュアと結婚?
ぶんっ
ぶんっ
…だっ
だいたいいきなり夫婦って!!
色んなものすっとばしすぎでしょ!
ぺた
ぺた
ぺた
お芝居のキスで騒いでる場合じゃないのよ!?
そうよ!
お風呂にだって平気で一緒に入っちゃうくらいの関係になるんだからっ!!
……
ザッぶーーんっ
きゃーーっ
ばしゃばしゃばしゃ
こらこら
広いお風呂だからってはしゃがないの

や…やあ…
エステル
はは…
こ…この格好だと
さすがに…
…

キーゃあああっ
なんでヨシュアがいるのよ!!
ええっ!?
いやあっ!!
こっち見ちゃダメ――っ!!
ティータ!!
ヨシュアが…
女湯に…!!
どっどうしたんですか!?
あ…あの…エステルさん…?
露天風呂は
男女混浴
なんですけど…



そんなこと一言も…
だって注意書きに思いっ切り書いてありますし
エステルさんもそれを見てヨシュアさんに勧めてたからてっきり…
えーーーん
そっそんなの知ってたらあたしだって…
はあ…
要するに全く読んでなかったってことでしょ
日頃の注意が足りないって証拠だね
な…っなによ！かわいくないんだから！
ざぶざぶ
いいよ別にかわいいなんて思われても嬉しくないし
僕はそろそろ上がるよ
ごめんねティータちゃん騒がしいお姉さんで
あ
あんですって――!?
人を見るなり悲鳴を上げて…
だいたいなんだよ
そんな反応をされるなんて
夢にも思わなかったよ
ヨ…

ね…
眠れない
ん
あの後
そこにいたのは

普段と何も変わらない
いつものヨシュア
だからあの件には触れることもなく楽しい夜を過ごしたのだけれど…
まだ…夜明けには程遠いわよね……
どうしようかな…

ヨシュア…？
あ…あれ？
ごし
どうしてあんなところに……
あれ!?

おかしいな
この辺りにいたと思ったんだけど
おかしいわよ どうしてヨシュアがこんな夜中に出歩くの?
…っていうか あたしたちと一緒にベッドで寝てたはず…よね?
だとしたら
考えられるのは
あたしの勘違い?
ああ…もう…
あたし…
そんなにヨシュアのことが気になるのかな

そんな反応されるなんて
夢にも思わなかったよ
……だっ
だけどっ
ヨシュアだって あの反応はなんなのよ!?
花も恥じらう乙女がすっぽんぽんで目の前にいるっていうのに!!
やぁ
エステル
…って!! そこは驚くところでしょ!? わーとかきゃーとか言うでしょ普通っ!!
………
でも…
混浴だから遠慮したのに入れ入れって騒がれて…
言うとおりに露天風呂に入ってたら今度は出てけって叫ばれて…
未だごめんの一言もないなんてどうなのよ…?
そんなの…
怒って当然よね…

あたし
どうしちゃったんだろ……
今までヨシュアをこんな風に
意識したことなんてなかったのに…
エステル…

いやあっ!!
ヨシュア…

……
じ――――…
ヨシュ…ア?
……
…エ…
ヨシュア!?
はい!
今度は本当にヨシュアなの!?
はい?
……
……
な……何してるの?こんなところで…
あ……
あのねっ
でもねっ
ヨシュアと一緒がイヤってわけじゃなかったのよっ
あれは…その…タイミングが…
ティータちゃんが…
…………じゃなくてっ!!

今更だけど…ごめんね!
露天風呂のこと…あたしずっと気になってたんだけど
ちっとも謝る雰囲気になれなくて…
このまま…ヨシュアを怒らせたまま
き…嫌われたりしたら…やだなぁ…って…
そんなこと考えてたらちっとも眠れなくて……
ヨシュアの幻まで見ちゃうし…
あたし…どうしたらいいのか…

エステルは何も気に病む必要なんかないんだよ?
僕は君に腹を立ててたわけじゃないんだから
…ましてや僕が
君のことを嫌いになるなんて…
そんなこと
万にひとつもあるわけないじゃないか

え
それに
露天風呂の件だって君は何も悪くないよ
え
え
それって
それって…！
あれは
エステルが混浴の注意書きを熟読したうえで露天風呂に入ってくるだろうなんて思ってた僕の完全なミスなんだから
あ…う…
だからもう気にしないで！
戻ろ
エステル
うん…
でもね
ヨシュアだってなんにも悪くないんだからね？
元はと言えば露天風呂が混浴なのがいけないのよ！
マオおばあちゃんも一言教えてくれればよかったのに
あの露天風呂はもともと
家族が一緒に入れるようにってことで混浴にしてあるんだって
え
だからあえて僕たちには何も言わなかったんだと思うよ
でも…さすがは人気の宿の女将さんだね
僕たちの関係を即座に見抜いてしまうなんて
……
あー…

確かにあたしは
頭使うゲームは
苦手だけど
だからって
あの勝ち方は
ひどすぎると
思わない？
勝負の世界は
厳しいんだよ
一回くらい
お姉さんの顔を
たててくれたって
いいじゃない
お姉さんなら
せめて一回くらいは
自力で弟に勝てる
ようになろうよ…
あ…
ご…
ごめんなさい
ふたりの
様子が
とっても
楽しくって…
わたし…
兄弟が
いないから…
なんだか
ちょっぴり…
うらやましいな…
あたし
いいこと
思いつい
ちゃった！

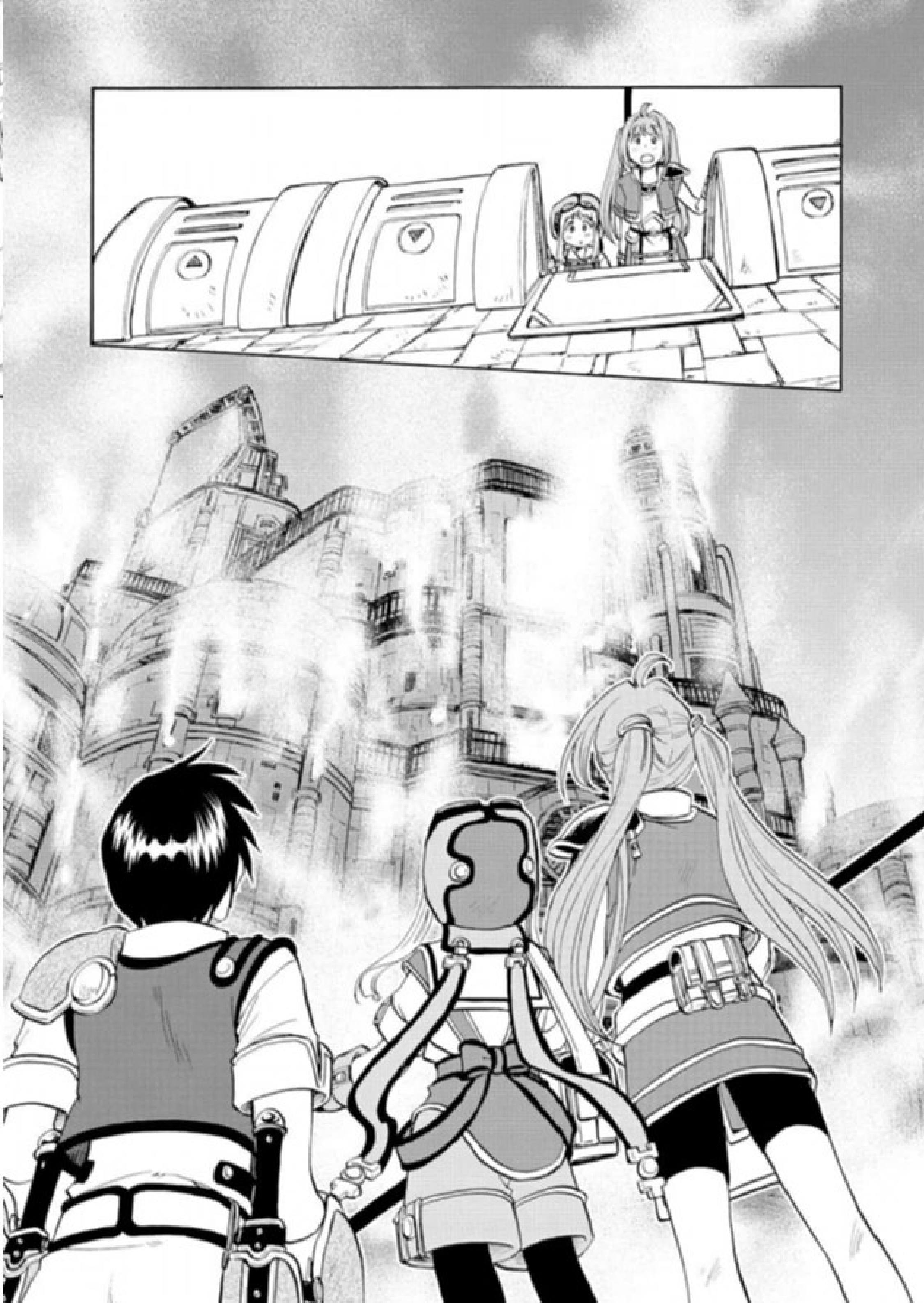
あ…ははは…
そう…よね…
あたしと
ヨシュアは
家族…
……だもんね…

ティータちゃん!! あたしが!!
ティータちゃんのお姉さんになってあげるわ!!
また突拍子もないことを…
そんなことないわよ!!
効果は実証済みなんだから!!
ね!?
エステルさん…
あ…ありがとうございます…
わたし…すっごく嬉しいです…!
こら!! ティータ!!
ふぇっ

なんなの!? お姉ちゃんとお兄ちゃんにむかって!
その他人行儀な口のききかたは!!
ありがとう!
エステルお姉ちゃん! ヨシュアお兄ちゃん!

お姉ちゃーん
お兄ちゃーん
早く！早く！
そんなに急がなくても
だってだって
中央工房に行くんでしょ？
わたし早くおじいちゃんに知らせたいの！

なにあれ…
煙…？
あの上って確か…
中央工房が………



なに!?
なに!?
火事!?
これで全部かね?
はい
常勤の方は全員無事です
マードック工房長さん
一体何の騒ぎなの!?
どうやら…工房内にガスが発生したらしい
ガス!?
いやはや…地下から5階まで煙まみれだよ…
あのおじいちゃんは無事ですか!?
安心なさい皆の退避は完了しているよ
ヘイゼル君!
博士はどちらにいらっしゃるのかね?

ラッセル博士は…
えっと……
ご自宅…では？
いやいや 昨日から工作室にいただろう？
ええっ？
あ…あの… 職員の方の行動は把握していますが
ラッセル博士は……まだ…
なんだって!?
まさか
まだ中に残っているのか!?

おじいちゃん!!
ティータ!!
マードック工房長!!
僕たちは工房内の捜索にむかいます
すみませんが遊撃士協会に連絡を!
博士とティータ君を頼む!!
ティータ!!
だめよ!!
戻りな…

うわ!
ゴーン!
きゃあ!?
ずぼっ
姿勢を低く!
念の為なるべく煙は吸わないように
どうしようヨシュア!
こんな真っ白じゃどっちに進めばいいのか…
こっちだ!
えぇっ?
なんで? わかるの?
離れずについてきて!

ね ねえっ?
本当にそっちでいいの?
どんどん…
煙が濃くなってる気がするんだけど…
あった!
え?
何? 何?
やっぱり…
チャッ
しゅラララ
ちょっと待ってて
ガコッ
ぽん!
おお!
これって…?
発煙筒だよ
こいつがガス騒ぎの原因みたいだね
しゅラララ

なーんだ…
単に発煙筒が動いてただけかぁ…
でもよかったわ
火事とかガスの事故じゃなくって
いや…
事故じゃないのなら
逆に事態は深刻かも…
…
人為的な事象には必ず意図が存在する
こんな大規模な手口…
まさか煙幕を張ることだけが犯人の目的だなんて考えられない
誰っ!?
は…
犯人…?
…どうやらこのフロアの煙はおさまったみたいだね
先を急ごう
ふたりが心配…
フン
こんなところにいやがったか
!

アガット!?
どうしてあんたが
あなたがここにいるということは…
…たく
あちこちに首つっこみやがって
わかってんならさっさと出て行きな!
あんですって…
アガットさん!!
ここにはまだ民間人が2人取り残されているんです!!
場所は?
おそらく3階の工作室です!
行くよエステル!
え?
あれっ?
グズグズするなガキども!!
あ…
うん…!

…っていうか
アガット!!
なんであんたが先頭を走ってるのよっ!!
もーっ
なんなのよあいつはーっ
忘れたのかいエステル!
彼が何を追いかけているのかを!!
追いかけ…
はっ

まさか…
黒装束が中央工房に!?
おい!!
なにぼけっとしてやがる!!
ちょっと待って!
ここにはまだティータや博士が…!
時間が惜しい!!
急げ!!
は…はいっ!!

ラッセル博士!!
ティータ!!
お姉ちゃん!?
ティータ!
あ!!
お兄ちゃんっ!!

ティータ!!
もうっ!
心配したのよ!
ごめんなさい…
エステルお姉ちゃん
ヨシュアお兄ちゃん…
どうしてガキがこんなところにいやがる!!
びくっ
なに怒ってるのよ?
あたしたちはこの子と博士を捜してたんじゃない

だったら
さっさと
外へ
お姉ちゃん!!
おじいちゃんは見つかった!?
工作室にいるんじゃなかったの!?
だけどいないの! どこにも見当たらないのっ!!
他にどこか心当たりはない!?
ほ ほか?
博士が行きそうなところとか!!
おじいちゃんが…
えとえと あの あの
はっきり言いやがれ!!
ひぃぃ!!
ちょっと!!
何 女の子脅かしてんのよっ!!
ティータ
「カペル」はどこにあるの?

なんだ そいつは?
かぺる?
中央工房にある導力演算機です
…昨日博士が黒の導力器の解析に使うって言ってたよね?
その黒の導力器が見当たらないんだ
ここ!!
カペルはこの演算室に…
いや!!
こっちだ!!

いた!!
あいつら!!
お…
おじいちゃん!?
逃がすか!!
ああっ!!

ダーッ
くそっ!!
おじいちゃん!!
外に脱出するつもりだ!!
降りよう!!
煙はおさまったみてえだが…
一体中はどうなってるんだ

くっそー!
なんか動きはねぇのかよ!
ドロシー
とにかくいつでも写真をとれるように…
んもーナイアル先輩ってば せっかくのツァイス地方の取材だっていうのにー なんで行き先が中央工房なんですかー ツァイスといえばエルモ村の温泉でしょ ぽっかぽかのお風呂にのぼせるまで入るのが夢だったのにー
湯上がりのフルーツ牛乳が飲みたかったよ〜
えーん
おまえな!!
「リベール王国が誇る導力開発機関最大の危機!!」と「お風呂上がりの美味しい飲み物♪」どっちが重要な記事だと思ってるんだ!?
もちろんそんなの決まってるじゃないですかー
あーっ言うな!!
それ以上は言うなっ!!
あ!
誰か出てきた!

王国軍…？
どうして中央工房から軍人が…？
あれ〜 あの軍服 前にも…
王国軍 王室親衛隊じゃねえか!!
まあっ
女王様の親衛隊!?
皆さん ご安心ください
事態はほぼ収束しましたよ
おぉ——
ほほ——
まもなく援軍が到着します
それまでもうしばらくお待ちください
ちょ… どいてくれ! 取材を!!
わあああ

くっそー
どこ行ったんだー
いたー!
どうも!! リベール通信社です!!
今回もぜひ何か一言を…
はぁーはぁー
ぜーぜー
あ
ユリアさんもこちらに来られてるんですかね!?
ユリア?

だめだ!!
そっちはどうだ!?
くそっ逃げられたか!!
そんな…
どうしておじいちゃんが…

おじいちゃん…
まだ逃げられたって決まったわけじゃないわ!
ヨシュアが向かった中央出口の方も捜してみましょ!
そうは言ってもな…
この人混みをじいさん抱えて突破するのはちっとリスクが高すぎやしねえか…?
ヨシュアお兄ちゃんー
ヨシュア!!
あいつらは見つかった!?
いやこっちでは『黒装束』の姿は一切目撃されていないらしい
じゃあやっぱりカルデア隧道の方に逃げたの
ちょっと待って!!
すみません工房長
続きを聞かせてください
ああ…
…でじきに援軍が到着するから安心していいと
出てきた王室親衛隊の軍人さんに言われたんだが…

親衛隊が来てるの!?
王都の軍人が…?
王室親衛隊にはアルセイユっていうすっごい飛行船があるの!
ルーアンでもそれに乗っていち早く駆けつけて犯人逮捕に協力してくれたのよ!
どうしてツァイスに…
こうなったら博士の救出も時間の問題だわ!
その親衛隊は
ラッセル博士を連れていませんでしたか?
博士を!?
い…いや…?
…大きな荷物は運んでいたが…
そうか…
間違いない!!あいつらだ!!
その人たちはどちらに?
あ…ああ
そのまま町の方に下りていったが…
ど…どういうことだね
博士に何かあったのか!?
詳細は後ほどお話します!
ダッ
追いかけるぞ!!
追いかけるって…
誰を!?

親衛隊の奴らに決まってんじゃねえか!!
ラッセル博士を救出しないと!!
博士は黒装束にさらわれたのよ!?
親衛隊よりもそっちを追わなくちゃ!!
黒装束の3人組はラッセル博士を連れて工房の下階に下りた
その直後に親衛隊の3人組が大きな荷物を持って工房から出てきたのを目撃されてるんだ
奴らエレベーターの中で軍服に着替えやがったのか
舐めたマネしやがって
え?
それって…
王室親衛隊が黒装束の正体だったってこと…!?
そんな…どうして…
だってあの人たち…
あれー? エステルちゃーん♡
おーい
おーい
ドロシー!
エステルちゃんもお仕事ー?
ねえっ!? 黒装束の連中を見かけなかった!?

黒装束？
工房で騒ぎを起こした犯人よ！
ルーアンの一連の事件に関わってた黒幕でもあるの！
うーん？
黒ずくめで武装もしてて３人組の…
知らない!?
では王室親衛隊ならどうですか？
それなら知ってるよー！
かっこよかったからさっきも写真撮っちゃったあ
どうしてそんなに親衛隊を疑いたいの？
親衛隊の人たちは悪いことをするような軍人じゃないわよ
それはどちらで
ヨシュアっ!!
少なくとも親衛隊のユリアさんは…
そう…だよな…
自分とこの上司の名前を知らない軍人なんざいるわけがねえ
あやうく誤認記事を書いちまうところだったぜ…
あいつらは王室親衛隊なんかじゃねえよ
親衛隊に扮したただの偽物だ！
奴らなら南門を出てトラット平原道を東に抜けてってったぜ
急げばまだ追いつけるさ！

エステル！
うん！！
姑息な手段使っちゃってぇ…
絶対捕まえてやるんだから！！
後で話を聞かせてくれよー！
…なんか…大変なことが起こったんですかねー…？
…みたいだな…
一体…何が…起きてるんだ……？
あら？あなたがたは

確か…
リシャール閣下のインタビューをされた
リベール通信社の記者さんではありませんこと？
や…
こ これはどうも…！
王国情報部のカノーネ大尉じゃないですか！
おい！！ちょっと待て！！
遅いわよアガット！！立ち止まってる時間なんかないんだから！！
てめえに言ってんじゃねえよ！！
ガしっ!!

こら!!
チビスケ!!
ふえっ!!
何自然についてきてやがる!!
ガキは家でおとなしく待ってろ!!
エステルお姉ちゃん
ご…ごめん…
やっぱ連れていけないかも…
そっそんなぁ…
でもでもっ
おじいちゃんがさらわれたのにわたし…
わた…っ
びくぅ!

ついてくんな!!
足手まといだ!!
ちょ…ちょっと…!
スタスタ
少しは言い方ってもんが…
ねえヨシュア…
お…お姉ちゃん…

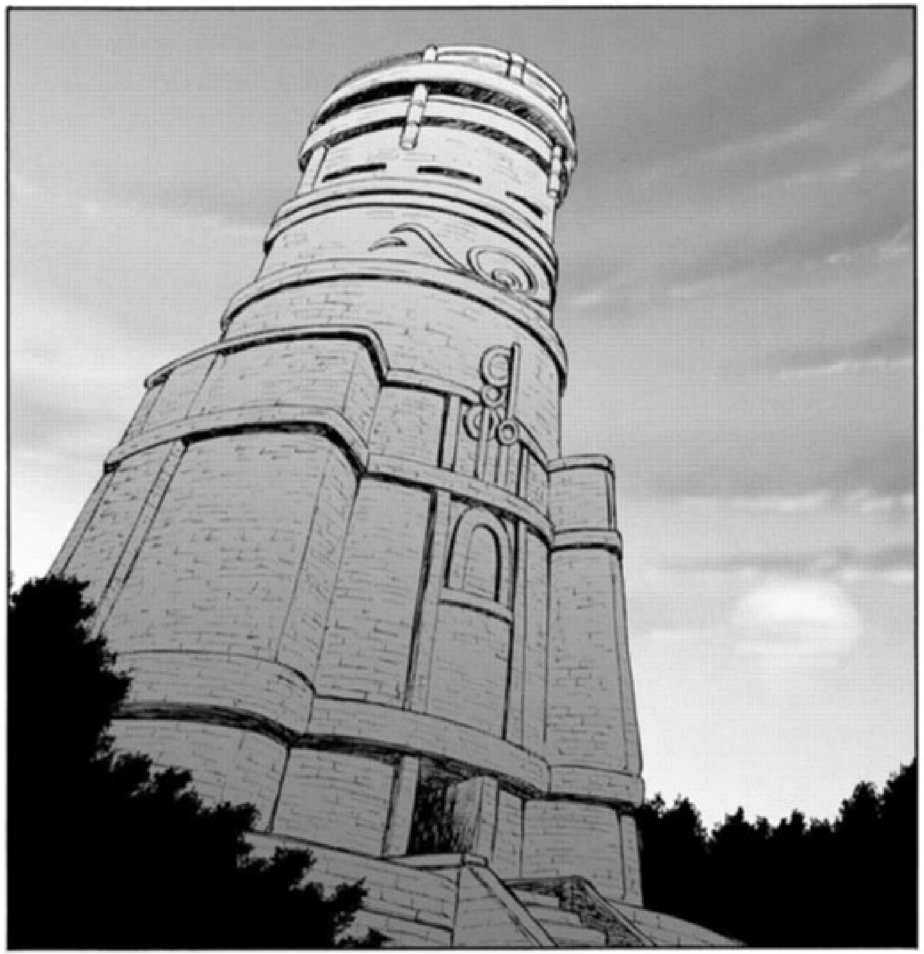
あ…あのね…
あいつらはとっても悪い奴らなの
ルーアンでも放火したり
人質を銃で撃ったり
もうかまうな!! 行くぞ!!
は…はい
とにかく…本当に危険なの!
待…
…ごめんね! 博士は必ず助けるから!
エステルお姉ちゃん…!
ひどい……
ひどいよぉっ……

くそ…
完全に見失ったな…
はぁっ
はぁっ
はぁっ
…そろそろ限界か…

あきらめるのはまだ早いわよっ！
博士を連れてウロウロできるはずがないわ！
きっとまだ近くに隠れてる！
あたしもう一度こっちを回ってみるわ！
…だめだ
そこから離れて…！
ガサ
誰!?
隠れてないで出てきなさい!!
……
あ…
あの—…
あ…
アルバ教授…

まぎらわしいなぁ!!
もー!!
なにやってんのこんなとこでっ!!
…って聞くまでもないけど!
この辺りにも四輪の塔があるの!?
あ…はい「紅蓮の塔」といいます♡
赤い壁が夕日に映える美しい塔なんですよ
そうそうちょうど良かった
私さっきまで塔の調査をしていたんですがね
ごめん教授!
塔の話を聞いてる場合じゃないの!
いえいえそうではなくて

実は塔の中に王国軍人が数名入ってきまして
その…見つかると面倒なので…
陰から様子を伺ってたんですよ
そしたら…
誘拐だの逃走ルートだの
不穏な言葉が出てきましてねえ
気になってしまって…
遊撃士協会に通報しようかと思ってたところだったんですよ



なんなのよ こいつら!?
なんだか 普通の魔獣じゃ ないみたい…!

これは明らかに 特殊な訓練を 受けた動きだよ
訓練!? 魔獣に!?
これまでの 手口から見ても …黒装束たちの 仕業である可能性が 高そうだね

俺は黒装束どもを調べ始めてから何度もこの魔獣の襲撃を受けた
無関係であるはずがねえ!
気をひきしめてかかれ!!
この先に必ず奴らがいるはずだ!!

いた…!!
とうとう見つけたわよ!!

ぽんっ!!
黒しょ…
ちょ!!
なにす…
ばふ!
気持ちはわかるが落ち着け!!
むやみやたらに飛び出すな!!
目前の状況を正確に把握しろ!!
今この状況下で俺たちが最も優先するべき事項はなんだ!?

……
ラッセル博士の身柄の確保…!!
…ならどう動く?
……
黒装束と……直接やりあうのは
あたしとアガット…ふたりだけの方がいいと思うの
ヨシュアは…
あいつらに見つからないように様子を伺いながら
博士の救出だけに専念してもらう…っていうのは?

まぁ……
セオリーか…
確かに小僧はスピードがあるし小手先のテクニックにも期待できる
この中では最も適任だろうしな
うん
それに
工房で…黒装束はアガットの姿を見てすぐにエレベーターで逃げたでしょ？
一緒に続いたあたしはともかく
あとから来たヨシュアの姿は黒装束から見えてなかった可能性もあると思うのよね
だとしたらヨシュアはノーマークで動けるわ！
だから一番重要な役割をお願いするのがい
い!?
ぐわっ!?

上等だ！
気をつけてエステル!!
いくぜガキども!!
うん!!
そこまでだ!!
とうとう追いつめたぜ黒装束共!!

あの時の遊撃士!?
まさか
ここまで鼻が利くとは…
てめえらがいくらない知恵を絞ってもしょせんはこの程度だってことだ
なっ
なんだと!?
あのスカした仮面野郎がいないのは残念だが…
まぁ…仕方ねぇ
てめえら雑魚で我慢してやるよ!
ふざけるな!!
バカにしやがって…
邪魔者は排除するのみ!!
俺らはあくまで陽動でいい
とにかく奴らをじいさんからひっぺがせ!!

はあっ!!
フフ…
パワーはあるがその分 動きが大味になる
そこが重剣の…

せいやっ!!
もっともらしく人の解説なんかしてるけど
この…!!
そーいうのは自分の状況を把握してからにしなさいよねっ!
アガット!!
おうよ!!

さあ!!
残るはあんただけね!!
そんな端っこに隠れてないでちょっとはかかってきなさいよ!!
く…っ
その銃はただの飾りなの!?
い……
言わせておけば…!!

あ!!
ひ…
飛行艇!?

形勢逆転だな!!
まさか飛行艇相手にやりあうつもりはないだろう!?
う…
我々とて遊撃士を敵に回すつもりはない
武器を捨てておとなしく見ていろ
そうすれば命だけは助けてやってもいいぞ

だめえっ!!
なんだ!?
あっ!!
ティータ!?
くそっ!! 新手か!?
早くラッセル博士を飛行艇へ!!

あっ!!
ばっ
おっ
おじいちゃんをっ返してぇっ!!
このガキが……!!
ティータ!!
グラ…
アガット!!
キャッ
オオオオ

ま…
待ちなさいよ!!
あ…
おじい…ちゃん…
お…
おじいちゃぁぁん…

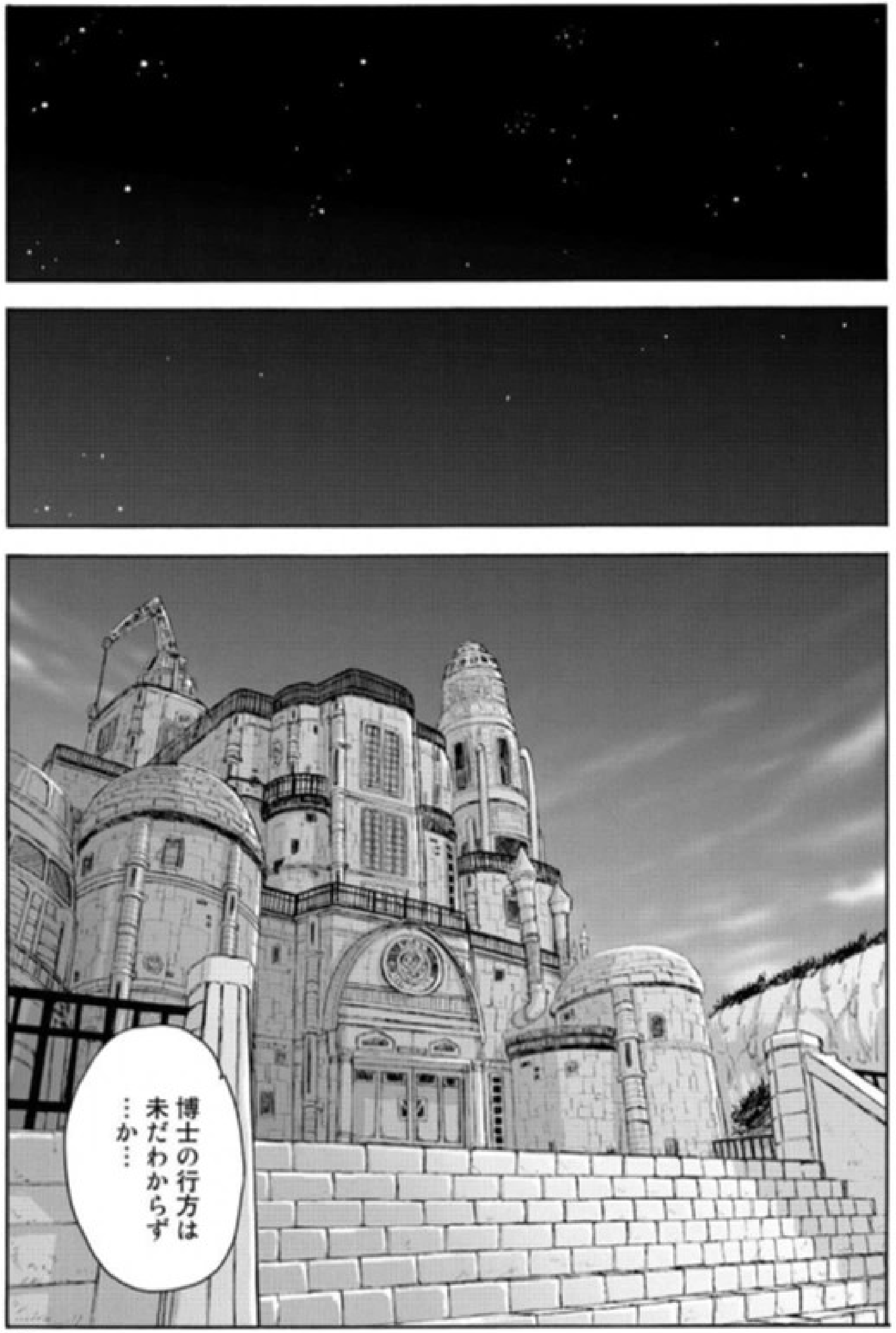
……なんで……
…どうして…
…おじいちゃん…
…どうしてぇ…
うあああぁん
ふぇえええん
ティータ……
おい
チビ
わああああ

へた…っ
ちょっ…
言ったはずだ!!
足手まといはついてくんなって!!
じいさんを助けるチャンスを逃した!!
おまえが邪魔したせいで
この責任どう取るつもりなんだ!?
おまけに下手な脅しかまして命を危険にさらしやがって!!
おまえみたいなガキがこの世で一番ムカつくんだよ!!

ア
アガットッ!!
力もないくせに 出しゃばり やがって…
別にあのまま 撃たれて 死んじまったとしても それはおまえの 自業自得だ
ガキひとり どうなろうが
俺の知ったこと じゃねぇ……
……けどな
おまえが
そこまで じいさんを大事に 想ってるように
じいさんに とっても
おまえは 大切な家族 なんだろう?
そんなおまえが 自分のために 命を落として…
それでじいさんが 本当に喜ぶと 思ってんのか?

じいさんを…助けたいんだろ?
だったら…ふぬけてないでシャキっとしろ

泣いてもいい喚いてもいい
まず自分の足で立ち上がれ
てめえの面倒も見られねぇような奴に
人助けなんざ…できるわけがねぇんだからな


博士の行方は
未だわからず
…か…

ですが
僕たちは…
遊撃士協会としては
引き続き事件の解決に
あたりたいと思います
よろしく
頼む…
中央工房も
助力を
惜しまないよ
どんなことでも
遠慮せずに
言ってほしい
ありがとう
ございます
早速ですが…
お願いしていた
件については…
ああ
徹底的に
調べ上げて
おいたよ
煙幕騒動前後で
中央工房から
なくなった物の
全リストだ
大半が
避難の際に
紛失した
職員の私物
だったんだが…
その中に
とんでもない物まで
消失していることが
判明した

博士が持ち込んだ あの「黒の導力器」と
演算室から
高速演算器「カペル」が…
カペル…まで？
ああ
中枢ユニット部分がごっそり抜き取られていたんだ
黒の導力器のような難解な代物の解析にはカペルの演算能力と
もちろんそれを100％使いこなせるラッセル博士自身が必要不可欠だろう
おそらく犯人はそのことを知っていて
博士と一緒に持ち去った…と考えるべきだろうね

工房の人達は黒の導力器の存在を知っていたのでしょうか？
それはない 私は誰にも口外してはいないからね
では…… 博士が誰かに話したのかも……
ヨシュアくん
見くびってもらっては困る
確かに…博士は導力器が絡むと周囲の迷惑を顧みない傾向もある
ツァイスで起こる導力器のトラブルはほぼ博士の仕業だと言っても過言でない…
え？
え
だがね それは
「導力器」というものを理解しきった彼だからこそ起こせる行動でもあるんだよ
そのラッセル博士が黒の導力器に限っては他言してはならぬと固くおっしゃった
助手もつけず部屋にこもってひたすら解析を急いでおられたんだ
…これが何を意味しているかわかるかね
…そこまで慎重にならざるを得ない程に
黒の導力器が危険だと…博士は判断されたんですね…

君が疑念を抱くのも無理はない
今回犯人は博士を拉致する為に中央工房を襲っているが
普段博士は中央工房よりも自宅のラッセル工房にいることの方が多い
だがあの日 犯人達が博士の自宅を訪れた形跡は見つからなかった
つまり…彼らは博士の居場所を事前に知っていたことになる
そんな正確な情報をどうやって手に入れることができたのか…
黒の導力器にしてもそうだ
あの白煙の中であんな小さな物を探し出してカペルと一緒に持ち去る…
そんな行動は明確な目的がなければまずありえない…
だとしたら
この犯人は…

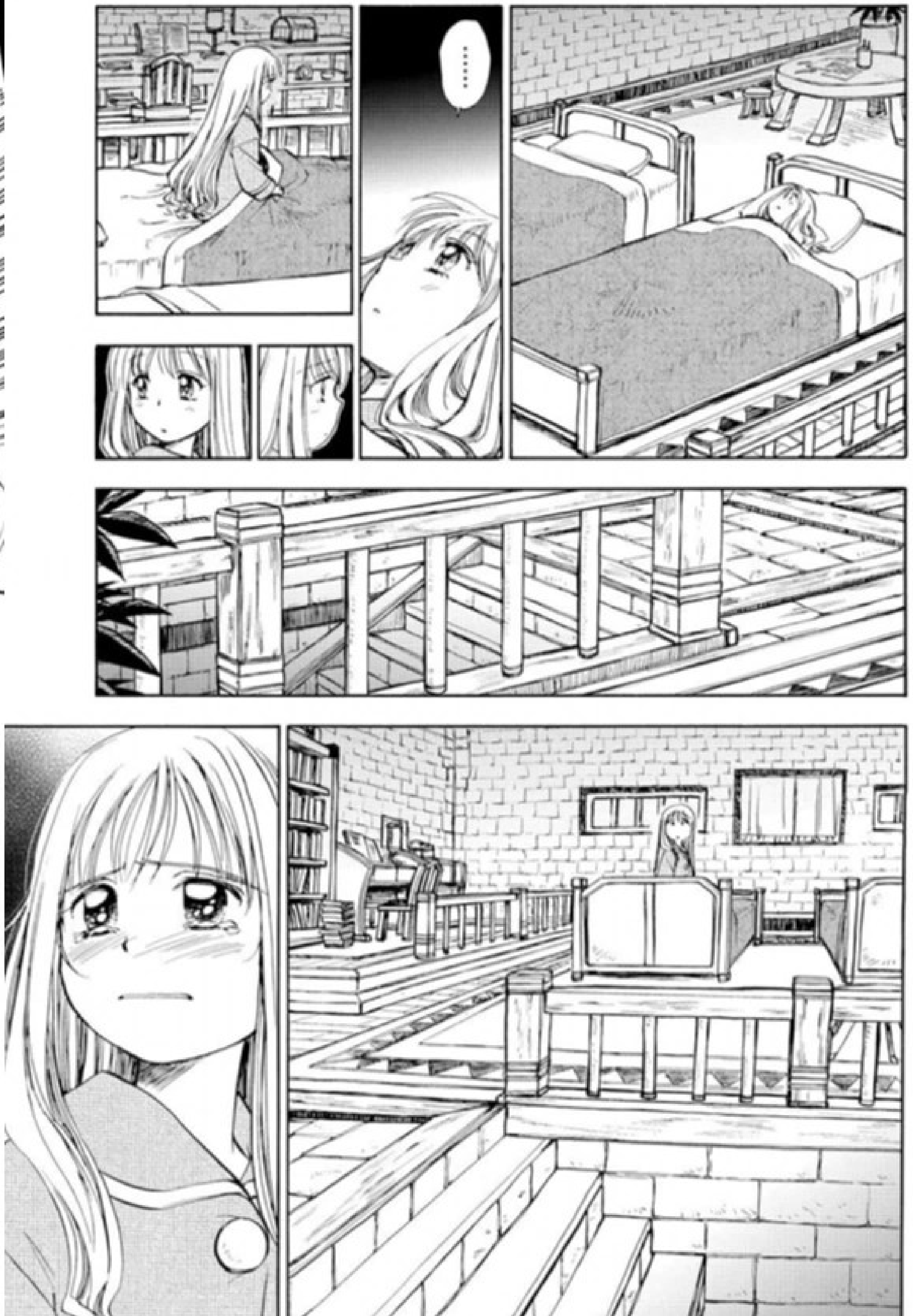
あの夜…ツァイスで起きた導力停止現象の原因が黒の導力器であることも認識している可能性が
…極めて高くなりますね…
そうだ…！犯人といえば
結局 博士をさらったのはあの親衛隊の連中だったのかね!?
…はい
皆さんが目撃した男たちの仕業であることは間違いありません
彼らが王室親衛隊と関係があるかはまだ不明ですが
か…関係ないのかね？
…ただの賊にあんな精巧な軍服を用意できるとは思えないんだが…
そういえば…
この間も親衛隊の巡洋艦がルーアンの港に現れたと記事があったような…

王都を守るべき親衛隊が他の地方をブラブラしてるのはいただけないな…
こういうことをしていざという時信用してもらえなくなるんだよ
情報部…
リシャール大佐率いる軍の新設部署だよ
この近くに彼らの本部レイストン要塞があるんだ
それに比べて…
情報部の軍人さんはたいしたものだね
あの事件の日君たちと入れ違いで情報部のカノーネ大尉が応援に駆けつけてくれてね
混乱していた現場の収拾に全力を尽くしてくれたんだよ
以前から情報部の活躍はリベール通信の記事で知ってはいたが
実際に見るとさらにいいねぇ
カノーネ大尉の美人っぷりも…実にいい!

……
そうだ
近くには情報部という心強い味方もいる
もちろん私も…
できることがあるならばなんだって協力しよう
容易なことではないかもしれないが…
だからこそ改めて
遊撃士協会に依頼を願いたい

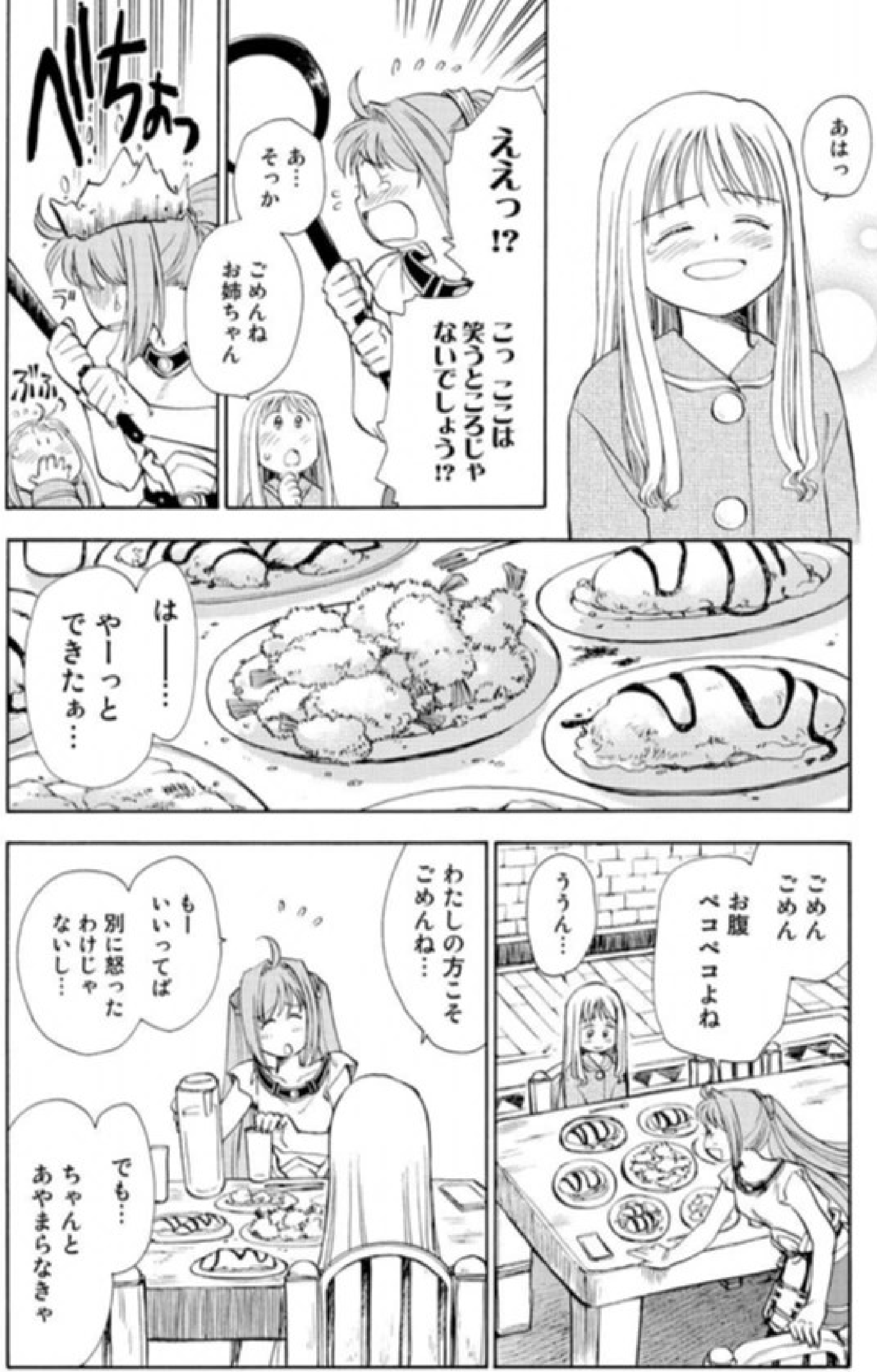
どうか
ラッセル博士を
助けてほしい
中央工房の…
ツァイスの街の…
リベール王国の為…
どうか…
ティータくんの為に……

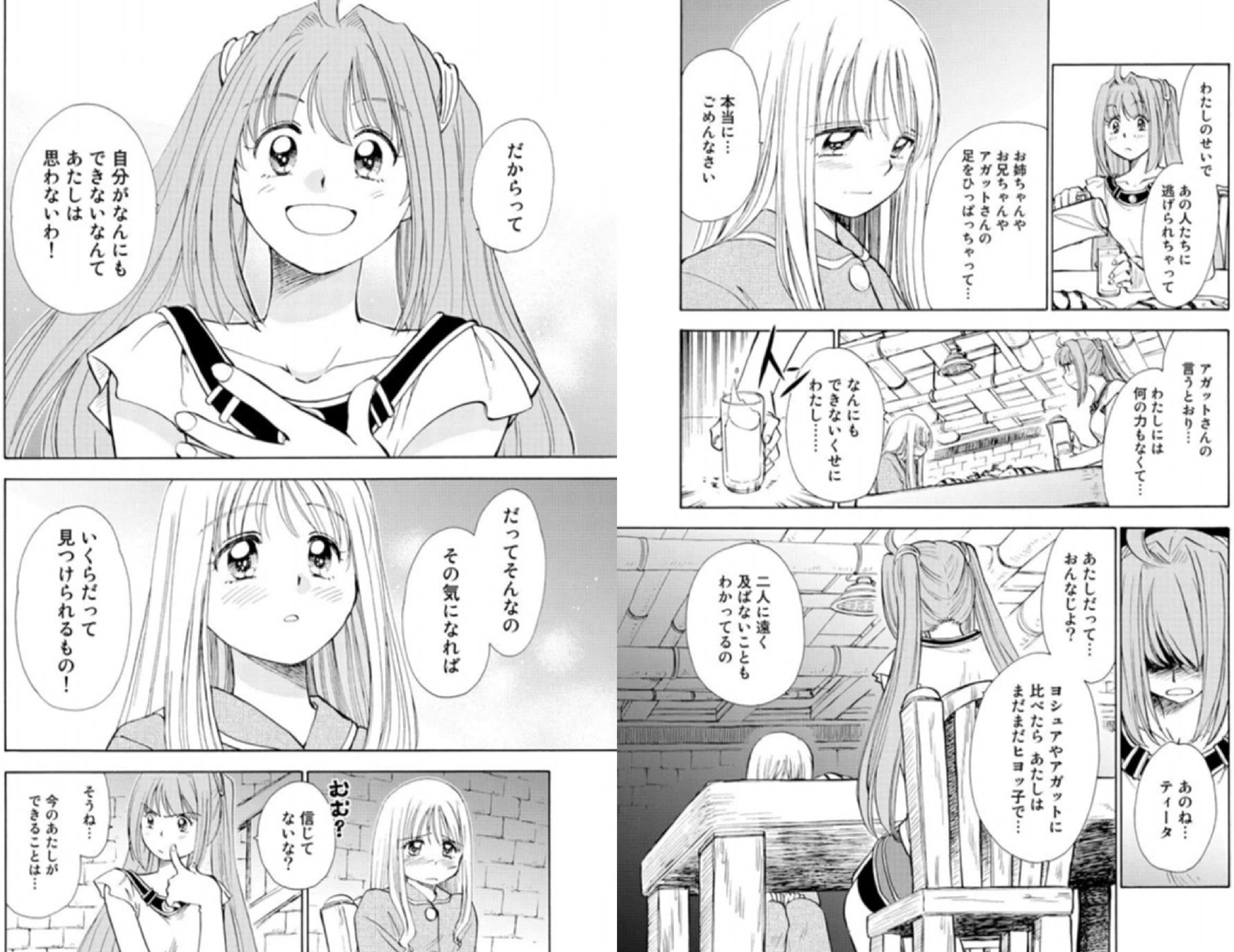
おはよう!!
おお
起きたか
ティータ


……

ガチャ
ガチャン
ガチャ
ばたばたばたばた
がっしゃん!!
ガシャガシャ
びくぅ!
あ
…あ
おはよう
ティータっ!!

ごめんね！騒がしくしちゃって
すぐ片づけるからちょっと待…
もぐもぐもぐ
うわ!!
ちょ
ちょっと待っててっ
この料理はね 玉子をひっくり返すタイミングが一番難しいの！
けど…心配しないでね
なんてったってあの父さんとヨシュアをうならせたエステルさんの自信作なんだから……!
……よーし いっくわよーー
どぉおりゃあああぁ!!
べちゃっ
えええー
なんであんな所に…
く…っ このーっ


あはっ
ええっ!?
こっ ここは笑うところじゃないでしょう!?
あ…そっか
ごめんねお姉ちゃん
べちょっ
ぶふっ
はーー…
やーっとできたぁ…
ごめんごめん お腹ペコペコよね
ううん…
わたしの方こそごめんね…
もーいいってば 別に怒ったわけじゃないし…
でも…ちゃんとあやまらなきゃ


わたしのせいで
あの人たちに逃げられちゃって
お姉ちゃんやお兄ちゃんやアガットさんの足をひっぱっちゃって…
本当に…ごめんなさい
アガットさんの言うとおり…
わたしには何の力もなくて…
なんにもできないくせにわたし……
あのね…ティータ
あたしだって…おんなじよ?
ヨシュアやアガットに比べたら あたしはまだまだヒヨッ子で…
二人に遠く及ばないこともわかってるの
だからって
自分がなんにもできないなんてあたしは思わないわ!
だってそんなのその気になれば
いくらだって見つけられるもの!
むむ?
信じてないな?
そうね…
今のあたしができることは…

ゼシ!
びくっ
博士を助けに行くために
しっかり食べて体力つけること!
じゃあ
いっただきまーす!!
い…
いただきます!
あーん!!
なんか…変な味がする…
うわー!!
それは食べちゃだめ――っ!!
エステルお姉ちゃん
このオムライス…

ヨシュア!!
お兄ちゃーん
おはよう
もうお昼だけどね?
ヨシュア…どうだった?
手掛かりは見つかった?
……
…だけど断片的なりに話を聞くことはできたから
なるほど
じゃあとりあえず遊撃士協会に戻ってみるか
ちょっと…!!
なんであんたがここにいるのよ!?
いて悪いかよ
そ…っ
そうじゃなくて…!!

だって…アガット…撃たれたんでしょ?
少しは安静にしてたほうが…
…
たいしたケガじゃねぇよ
こんなもん
気合いで治る!!
だったら…
せめてその服なんとかしなさいよ
そーゆーの見てるこっちが痛々しいんだからっ
ん?
たく…
めんどくせーな…
あ…
あの…
アガットさん
あ?
いろいろ…迷惑かけてごめんなさい
それと…
助けてくれてありがとうございました!
別に助けたわけじゃ
あ…あのアガットさんは…
…おっ

お洗濯は得意ですか!?
は?
お裁縫は…どうですか!?
いや……
得意…ってわけじゃあねえが……
わたしは
そういうの得意ですっ!!
わたし…できます!!
その服…よかったら
わたしに直させてくださいっ!!
ぺこ!

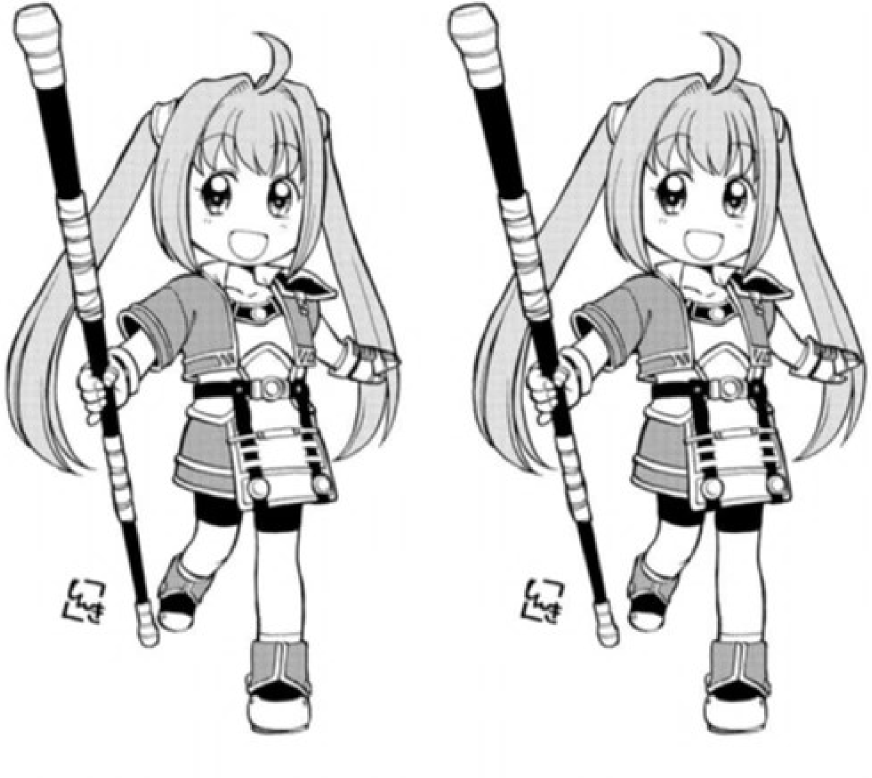
はぁー
とっととすませてくれ
は…
はいっ!
任せてください!!

頑張ってねティータ!!
いじめられそうになったら全力でやり返すのよ!!
うんっ
頑張る!
いじめるかボケッ!!
よーし…
あたしも負けてらんないわよね!
ああああああ
エステルちゃぁぁあん
うわっ!?
聞いて聞いてエステルちゃぁあん
ナイアル先輩がひどいのぉ
いじめっ子なの
仕事の鬼なの
ヤニ臭いのぉ
それは関係ねぇだろが!!

ナイアルさん
情報のギブアンドテイクって話だったろ？
ん？
そっちもあんま芳しくないって感じだな…
はあー
あの大ボケカメラマンがやらかしさえしなけりゃ…
だけどねぇ私は言われたとおりにしただけなの〜
あーーん
なのに先輩ったら私が悪いって怒るんだよお〜
ひどいよね〜そう思わない〜
思う思う！
どこも先輩ってのは上から目線なのよね！
そーなのー
負けちゃだめよドロシー！
こういう時こそいい仕事して先輩をぎゃふんと言わせなきゃ！
えへへ…
私もそう思って雑誌用の写真を撮ってきちゃった
見て見て
さっき現像したばかりなの

きれーい…！
これってどこの写真なの!?
この近くのレイストン要塞だよ
とってもかわいく撮れたでしょ♥
い…いつの間に…
きょ…許可なしに軍事施設を撮影したらまずいんじゃ……
えっへん
わー
すごーい
あれ…？
これってもしかして…

リベール通信 号外 vol.4
うーん
うーん
うーん
あれー？
今回は何をやってるんですかナイアル先輩？
特集記事用に飛行船のイラストを描いてくれと頼まれてな…
これは…なかなか興味深い絵ですねぇ…
うるせえっ!! こんな複雑なモノ俺に描けるかっ!!
資料はあるんだが…
こう…もっとななめ上から見下ろすような角度の構図が欲しいんだよな
だったらその飛行船の3Dモデルを作ってみたらどうですか？
す…3Dモデル!?
作ったモデルをレンダリングして線画を抽出すればそのまま絵として使うこともできちゃいますし
平面の絵を描く場合でも立体のモチーフがあれば全体像をつかみやすいじゃないですか
しかし……そんなものを作る技術が…
…ないとお思いですか？
くいっ
おお!?
うふふ♥
こんなこともあろうかと実は私 かねてから3Dモデル制作の勉強をしていまして
すげー!!
幸いここは設備の整った工房都市ツァイスですし
先輩がどうしても必要と言うのなら…
うおおおー!!
お願いします ドロシー様!!



英雄伝説 空の軌跡(４)

漫画：啄木鳥しんき

原作：日本ファルコム

発行日：2012年8月10日

©Shinki KITSUTSUKI 2012

©Nihon Falcom Corp.

「英雄伝説 空の軌跡(４)」

(2012 年 8 月 10 日初版発行) に基づき制作